伝えたい

まちの遺産

伊藤氏庭園

南越前町瀬戸の伊藤家は代々庄屋を務めてきた旧家です。庭園は、伊藤家十代の祖で医業を営んだ助左衛門により、江戸時代中期（享保年間）に流行した庭園図本『築山庭造伝』を手本にしてつくられました。

当時は庭師的な専門家はまだ存在しなかったため、助左衛門の相当厳しい指導のもと創設されたと伝えられています。伊藤家には「大変苦労をして作った庭であるから、子孫は大切に守っていくように」という言い伝えがあり、「築山池泉の小庭としてよく保存されたものである」として昭和7年、国の名勝にも指定されました。

庭園は、主屋の南側に作庭された広さ五百平方メートル程で、「座観式林泉庭園」です。見所は地割と配石にあり、山の斜面を利用した築山の中央に三尊石、左右に不動石と山腰石が同間隔で置かれ、築山後方には遠山石を添えています。三尊石を基点として、すぐ前の座禅石、手前の礼拝石を結んだ縦の線がこの庭の主軸であり、延長していくと母屋の座敷中央を通ります。この主軸をもとに左右対極的な構成で配置されています。

庭池を挟んで右側を客人の座（上座）、左側を主人の座（下座）とし、上座には作者が一番工夫を凝らした「虎の子隠し」と呼ばれる石組があります。これは、豹（豹石）が谷間に隠れた虎の子の隙を窺っている様子を表現しています。下座には瀧口が設けられ、二谷三方石、オシドリ石などの石組が築かれています。

庭池は、東西に細長く心字形に作られた心字池となっており、蓬莱島としての亀島に対し池右隅に鶴の岬、怒濤石に対して舟石、遊漁石が配置されています。

築山の南東部にあるイチイは樹齢数百年といわれ、この庭園の作庭年代よりも遙かに古い名木です。往時に比べ樹勢が衰えてはいるものの、借景をなすスギの巨木とともに奥ゆかしさを添えています。

住宅庭園ではありますが、『築山庭造伝』の庭園図本に忠実な構成で作庭されており、伝統的日本庭園が持つ精神性や宗教的要素を感じられる落ち着きのある庭園となっています。また、作庭当初の姿をよくとどめていることから、単に鑑賞的価値だけではなく、庭園資料としても貴重な庭園です。

～和の風～

町長随想

増澤 善和

街道ロマン調の今庄小学校②

③地元産杉による木造校舎

訪問者が正面玄関から中に入って、まず驚くのは今庄ホールの威容であろう。二階までの吹抜けの空間に、太さ50cm・長さ12mのスギの巨大丸太柱が十一本も林立する豪快な雄姿に大きな感動を覚えるからであり、この柱が木造校舎の象徴ともなっている。建築に使用された木材は今庄産杉（町有林）であり、この柱を含めて四百本が伐採された。現在の六年生は伐採風景を見学している。森林にこだまするチェーンソーの音、大木が倒れたときの地響き、年輪を数える手の感触。子供達は一生の思い出となる体験学習とともに、杉を育てた先人達と地元への感謝の気持ちや、新校舎への大きな期待と誇りも感じとっただろう。

豪雪地であるので特別教室・管理室の一階部は鉄筋コンクリート（内装は木質化）とし、児童の生活の中心となる普通教室の二階部は木造として、家庭的雰囲気の中での「心の教育」にふさわしい校舎となる。また、木造なので三十人学級や学校統合で複数学級となっても対応できる。

④広い屋外運動場と校舎周辺

二百mトラックと百m直走路がゆったり取れる大グラウンド。二十五本のブナ・コナラ・ケヤキなどで野鳥観察も期待される音楽堂北の「わくわく広場」。音楽堂後部扉を開放すれば舞台となり、この広場と共に野外劇場となる。校地北側（JA側）にはポプラ二十一本、トウカエデ十八本の防音、防塵林。校地東と南にはサクラ三十本、入学式前後には花見の名所ともなる。日野川の清流や緑豊かな山林にとけこんだ校舎や校庭となっている。

⑤総合教育ゾーン

この地域は、小学校・中学校・町民プール、そして幼稚園と保育所が一元化した「今庄こども園（仮称）」も計画されている。このゾーンは、教育関係施設が集約化され、社会教育も含めた複合的利用可能な文教地区となるだろう。